

3 学年 生活単元学習「掲示物を作ろう」指導略案

単元・題材名	掲示物を作ろう	生 徒	生活家庭科 3 年生徒 9 名
		場 所	生活家庭科 3 年教室
日 時	平成 27 年 11 月 25 日（水）6, 7 校時	指 導 者	T1：鈴木絢
単元の全体目標	○ 全員で協力して作業することができる。		
本時の目標	○ 見る人に自分達の気持ちが伝わるような掲示物をつくることができる。 ○ 効率の良い方法を考えながら作業を進めることができる。		
協同学習の観点	①「 <u>互恵的な相互依存性</u> 」 ②「 <u>対面的なやりとり</u> 」 ③「個人の責任」 ④「ソーシャルスキル」 ⑤「チームのふりかえり」		

過程 時間	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材・教具
導入 (10 分)	挨拶 本時の学習	○ 日直の号令にあわせて挨拶をする。 ○ 本時の学習内容を確認する。 ○ 本時の流れを確認する。	○ あらかじめ、授業が始める前に掲示物作成に必要な物を用意しておくように伝える。 ○ 学校祭の写真を使って掲示物を作成することを伝える。 ○ 本時の流れを確認する。 ・話し合いを行う ・掲示物作成 ┌・写真を切る・写真を貼る位置を決める └・写真を貼る　・絵や文字を書く ・模造紙の裏を補強する。 ・廊下に掲示する ・片付けを行う	
展開 (85 分)	話し合い 掲示物作成 掲示 片付け	○ 掲示物を作成するときの条件を確認する。 ○ 条件を踏まえて、よりよい掲示物を作るにはどうすれば良いか一人ずつワークシートに記入する。 ○ <u>一人ずつ意見を述べる。</u> ○ <u>全員の意見をまとめ、どのように掲示物を作成するかを決める。</u> ○ <u>掲示物を作成する。</u> ・ <u>担当や役割を生徒同士で確認しながら作成の流れに沿って掲示物を作成していく。</u> ○ 掲示物を廊下に掲示する。 ○ 写真を切って出た紙くずや使った道具を片付ける。	○ 掲示物を作成するときの条件を伝える。 ・集合写真を真ん中に貼る。 ・行事の名前と日付を入れる。 ・見る人に自分達の気持ちが伝わるような掲示物 ○ ワークシートに自分の意見を記入するよう伝える。 ○ 一人ずつ意見を述べた後に意見をまとめ、決まったことを教師に報告するように伝える。 ○ 分からないことがあれば仲間や教師に確認するよう伝える。 ○ 協力して作業できていない場合は言葉がけを行う。	○模造紙 ○はさみ ○のり ○画用紙 ○マジックペン ○テープ その他生徒が掲示物作成に必要なと考えた物。
整理 (5 分)	まとめ 挨拶	○ 本時を振り返る。 ○ 日直の号令にあわせて挨拶をする。	○ 本時を振り返る。	

【全員授業研究 ふりかえりレポート】

単元・題材名	学級生単「掲示物を作ろう」	生 徒	生活家庭科 3 年生徒 9 名
		場 所	生活家庭科 3 年教室
日 時	平成 2 7 年 1 1 月 2 5 日（水） 6， 7 校時	授 業 者	鈴木 絢子
普段は教師主導で行っている活動を、今回は生徒主体で行った。また、生徒主体で活動するにあたって、「よりよい掲示物を作るためにどのようにするか」を生徒達で話し合う時間を設けた。活動に入る前にあらかじめ制作の順序や条件等について確認をしたため、教師が制作の途中で「〇〇をやりましょう。」などの言葉がけをしなくても生徒同士が「〇〇やるね。」「そろそろ〇〇やったほうがいいんじゃない。」等、声を掛け合って活動することができた。 しかし、特定の生徒が活動の中心になっていることが多く見られた。話し合いの過程で個人の役割や担当、求められていることを明確にし、個人個人がどのように行動しなければならないのかをよく理解できるようにする必要があった。また、生徒主導で活動している中でも自分がどのように行動すべきなのかをその都度確認できるような言葉がけが必要であった。 今後、授業を行う際には生徒が主体的に動くことができるような枠組みを作ると同時に、それぞれの生徒が自分の役割を理解できるよう提示することや、生徒の動きを見ながらタイミングよく言葉がけを行っていきたい。 これからも助言を頂きながら授業づくりに励んでいきたい。			

平成27年度 2学年 生活家庭科作業学習授業略案

日 時	平成27年11月30日(月) 10:35~12:15		場 所	作業室2	指導者	T1:佐々木 T2:山口 T3:出村
単元名	販売(3月)の製品作り		題材名	紙すき、ミニ封筒作り		
本時の目標	①仲間と適切なコミュニケーションを取り合い、協力して取り組むことができる。 ②自分の役割を理解し、最後までやり遂げることができる。					
協同学習の観点	①「 <u>互恵的な相互依存性</u> 」 ②「 <u>対面的なやりとり</u> 」 ③「 <u>個人の責任</u> 」 ④「 <u>ソーシャルスキル</u> 」 ⑤「 <u>チームのふりかえり</u> 」					
時刻	学習活動				教材・教具	
10:35	・始業あいさつ ⇒ 「気をつけ」「これから作業を始めます」(日直の号令により、全員あいさつ) ・「佐々木先生、お願いします。」(日直)出席確認、作業内容、終了時間を伝える。 ・「気をつけ」「おねがいします」(日直の号令により、全員あいさつ)				<生徒服装・持ち物> ・作業服 ・筆記用具 ・作業ファイル	
展 開 10:40	○紙すき(8,0g さくら色2枚づつ) ←寿の箸袋用の紙 目標→30枚(前時27枚) ・計量・ミキサー E ・計量・紙すき B ・ローラー A,C ミキサー・紙すき担当が手が空いたときに計量を行う。計量を行うことを伝え合う。 ミキサー・紙すき・ローラーは手が空いたときに紙出しを行う。紙出しを行うことを伝え合う。 ローラー担当は目標達成に向けて5枚毎に出来高を伝える。 ○ミニ封筒作り 目標→30枚 ・切る→H ・折り線・テープ付け→D ・テープ貼り完成→G 個人の出来高目標を決めて目標数を上回れるように取り組む。(出来高表に記入) 次の工程担当に声を掛ける。封筒を完成させる担当が目標達成に向けて5枚毎に出来高を伝える。				・デジタルはかり・お花紙 ・牛乳パック ・ミキサー ・タイマー ・タオル ・ピンセット・あみじゃくし ・すき枠 ・ローラー ・バケツ ・椅子 ・ネル生地 ・不織布 ・製品用はさみ ・へら ・カッター板 ・両面テープ	
11:40 11:45	<u>ミキサー終了をミキサー担当が全体に伝える。</u> <u>作業終了を伝える。</u>					
11:45	掃除(15分以内で終わらせたい) ・掃き掃除(自在ぼうき) ・拭き掃除 ・黒板 ・床拭き 自分が何を担当するのかを伝える。掃いてほしい場所や拭いてほしい場所を伝える。					
12:00	・日誌を書く					
12:10	・全体反省 ・「気をつけ」「これから作業の反省を始めます」(日直) ⇒・「佐々木先生、お願いします」(日直) 「山口先生、お願いします」「出村先生、お願いします」(日直) ・終業あいさつ ⇒「気をつけ」「これで作業の反省を終わります」「ありがとうございました」(日直の号令により、全員あいさつ) ※「お疲れ様でした」 ・プレートを変えて、教室に戻る。					
2学期の重点						
・自分から声を出す!(挨拶・報告・相談、仲間と声掛け(正しい言葉遣いで!)) ・気をつけることや自分の作業内容を説明できるようにする。(自分の仕事に責任を持つ・言語活動の充実)						
指導記録						

【全員授業研究 ふりかえりレポート】

単元・題材名	作業「販売の製品作り」 紙すき・ミニ封筒作り	生徒	生活家庭科2年生徒8名
		場所	作業室2
日時	平成27年11月30日(月)3・4校時	授業者	佐々木 真由美
①普段の授業から紙すきの流れ作業の中で、自分が担当する工程の前後の担当者に声を掛け合いながら行っているところは、よかったと思います。また、本時から紙が5枚できる毎に全体に報告することに取り組んでみました。この報告により目標枚数を達成しようという意識が高まったように感じます。その後も続けていますが、生徒から目標まで後〇枚だ！というつぶやきも聞こえるようになりました。 改善すべきところは、個に対しての言葉がけのタイミングや言葉がけの内容です。 ②どんな言葉がけが適切か、分かりやすいか、生徒が取り組みやすいかなどを考えなければならないと改めて感じた。今後も生徒の行動観察をしっかりして記録し、指導者間でも話し合いを行いよりよい手立てをしていけるようにしたい。			

平成27年度 1学年 生活家庭科作業学習授業略案

日 時	平成27年11月30日(月) 13:05～14:45	場 所	縫工室	指導者	T1:今野 T2:岩城 T3出村 T4:藤倉									
単 元 名	他学科作業	題材名	ステンシル布巾、フェルトボール作り											
本時の目標	(生活家庭科・産業科共通) ○仲間と協力して、作業や掃除を行うことができる。 (生活家庭科) ○最後まで責任を持って、担当の作業の工程や注意点を説明することができる。 (産業科) ○生活家庭科の作業内容について理解を深めることができる。 ○作業工程の説明をよく聞き、説明通り作業ができる。													
協同学習の観点	①「 <u>互恵的な相互依存性</u> 」 ②「 <u>対面的なやりとり</u> 」 ③「 <u>個人の責任</u> 」 ④「 <u>ソーシャルスキル</u> 」 ⑤「 <u>チームのふりかえり</u> 」													
時刻	学習活動			教材・教具										
13:05	- 早く来た生徒から道具を準備する。<u>生活家庭科の生徒は産業科の生徒に使う道具を教えながら一緒に準備する。</u> - 始業あいさつ ⇒ 「気をつけ」「これから作業を始めます」「礼」 (日直の号令により、全員あいさつ) 「今野先生、お願いします。」(日直) 出席確認、作業内容、終了時間を伝える。 1学期に行った他学科作業の内容(生活家庭科1年の1年間の作業内容など)、他学科作業を行う目的、本時の流れについて説明する。 「気をつけ」「おねがいます」(日直の号令により、全員あいさつ) ※「作業開始!」(MT)「ハイ!」(生徒全員)			<生徒服装・持ち物> - 作業服に着替えて集合する。 - ミシン ・ミシン糸 - 裁縫セット ・練習用布 - 製品用さらし - ステンシル絵の具 - マスキングテープ - スポンジ ・皿 - 新聞紙 - ステンシルプレート - 羊毛フェルト - ふってふって ・たらい - ボウル ・洗剤 - お湯 ・ポット - タイマー ・はさみ - 布巾 ・計量カップ - バット ・ビニールプール										
展開 13:10	○ステンシル布巾・フェルトボール作り 6つのグループに分かれる。 <u>生活家庭科の生徒が産業科の生徒に、それぞれの担当の作業に使用する道具、工程、注意点などを説明しながら、やり方を教える。</u> <u>産業科の生徒は、生活家庭科の生徒の説明を聞きながら作業を行い、わからないことがあれば質問する。</u> <u>良い製品を作るために、各グループで協力して取り組む。</u> <table border="1"><tr><td>ステンシル</td><td>A、G、H</td><td>D、K</td></tr><tr><td>ステンシル布巾のわ部のミシンがけ</td><td>B、I</td><td>E、L</td></tr><tr><td>フェルトボール作り</td><td>C、J</td><td>F、M</td></tr></table>			ステンシル	A、G、H	D、K	ステンシル布巾のわ部のミシンがけ	B、I	E、L	フェルトボール作り	C、J	F、M		
ステンシル	A、G、H	D、K												
ステンシル布巾のわ部のミシンがけ	B、I	E、L												
フェルトボール作り	C、J	F、M												
14:10	<u>各グループの成果や感想を簡単に発表する。</u>													
14:20	片づけ ・グループごとに協力して道具の片づけを行う。 掃除 ○道具の片づけが終わったら、<u>グループごとに分担を決めながら協力して縫工室の掃除を行う。</u> - 床(掃き掃除、ゴミ捨て)② ・棚拭き① ・机拭き① - 黒板(消す、クリーナー、雑巾で拭く)① ・ステンシルの道具を洗う①													
14:35	- 全体反省 「気をつけ」「これから作業の反省を始めます」「礼」(日直) ⇒ 「今野先生、お願いします。」(日直) 「岩城先生、お願いします」(日直)「出村先生、お願いします」(日直) 「藤倉先生、お願いします」(日直) - 終業あいさつ ⇒ 「気をつけ」「これで作業の反省を終わります」「礼」「ありがとうございました」(日直の号令により、全員あいさつ) ※「お疲れ様でした」のような締めのことば。(MT)													
授業記録(2学期のポイント)														
- あいさつ、返事、報告を大きな声です。 返事は「はい」の徹底! ・わからないときや質問は、すぐに聞く。 - 正しい言葉遣いで話す(生徒同士でも)。 ・仲間と協力(声がけ)して準備、片づけ、掃除を行う。														
指導記録														

【全員授業研究 ふりかえりレポート】

単元・題材名	他学科作業 「ステンシル布巾、フェルトボール」	生徒	産業科 1 年生徒 7 名 生活家庭科 1 年生徒 6 名
		場 所	縫工室
日 時	平成 27 年 11 月 30 日（月） 5・6 校時	授 業 者	今野 優子
生活家庭科の生徒達は、学校祭で販売に取り組んだ製品の工程を、体験に来た産業科の生徒に教えるために、自分達で工程表を作り、ロールプレイで練習して本時に臨んだため、緊張はあったが教師の力をあまり借りず、自分達の力で作業工程を教えることができたと思う。産業科の生徒達も生活家庭科の生徒の指示を聞き、質問したり確認を取ったりしながら作業を行っていたが、アンケートに書かれていたように、産業科の生徒が自主的に教師に報告に行ったり作業を先に進めたりしていた場面もあり、「教師に聞く前にまず生活家庭科の生徒に確認や報告を行う」「教師への報告は生活家庭科の生徒と一緒に行う」などのルールを設定しておくべきであった。また、授業の導入の際、本時の予定や他学科作業の目的、生活家庭科 1 年生の作業内容など、説明することが多く、作業時間を確保するために急いでしまったので、事前に予想していた通り、アンケートでは指導やポイントがわかりにくい、板書すべきと書かれていたので、次回農業科が体験にくる際には時間をかけ、説明を工夫したい。同様に、生徒の感想を発表する時間が短く、言うことを考えている生徒の動きを止める発問をしてしまったので、感想はその場で紙に書かせて、発表は休み時間や次時に行うようにして作業時間を確保したいと考える。今後も、同じ目的に向かって生徒同士でできる活動を設定しつつ、より良い活動になるよう、教師のアプローチや説明の仕方を工夫していこうと思う。			

2 学年 国語科「手紙を書こう」学習指導案

月 日	平成 27 年 12 月 2 日 (水)
場 所	2 学年農業科教室
時 間	9 : 4 5 ~ 1 0 : 3 0
対 象	2 学年産業科 1 名、農業科 5 名、 生活家庭科 1 名 計 7 名
指導者	T1 野呂篤志 T2 住谷 亮

1 単元名 『手紙を書こう』

2 生徒の実態

2 学年の国語科では生徒の実態に応じて 4 つの指導グループに分けて授業が行われている。本グループは、産業科 1 名、農業科 5 名、生活家庭科 1 名の計 7 名で構成されている。IQ は 60~70 の間であり、自閉症が 2 名、アスペルガー症候群が 1 名となっている。

単元に関わる実態としては、まず、昨年の国語で「年賀状の書き方」を行い、はがきの表書きについて学んでいる。はがきの表書きについては、迷いながらも書くことができる。また、5 月の現場実習では総合的な学習の時間で、10 月の個別実習では放課後に、礼状書きを経験している。しかし、国語科の授業としては、封筒を書き方や、礼状の文体については、まだ取り組んでいないため、これからの課題となる。

学習の姿勢としては、課題を与えると、一人ひとりで集中して解くことは得意である。また、ペアやグループでの活動になると、特定の生徒とは会話をしながら取り組むことができる。しかし、関わりが得意ではない生徒や、苦手な生徒でのペアでは、関わりが進まない様子が見られ、一人ひとりで取り組んでしまうような姿も見られる。

そのため、ペアを作るときは、自由にペアを組むだけではなく、お互いに取り組みやすいペアにしたり、普段関わりが少ない者同士のペアにしたりなど、教師が意図的にペアを指定している。様々なペアを経験しながら、ペアで協力して活動に取り組むことができるようにしている。

3 単元について

本単元では、「手紙」について指導する。

時代の流れとしては、メールや SNS でのメッセージ等、インターネットを介したやりとりが増えてきている。メールやメッセージは、状況によっては相手に不愉快な気持ちを与えたり、誤解を生じる場合がある。そのために、メールやメッセージの書き方等の学習は今後必要となってくるであろう。

そのような中で本単元では、「手紙」の中でも、「封筒」や礼状（公的な文書）、私信（私的な文書）にクローズアップして行う。これから先、生徒は再度現場実習を行うことになる。実習後に書いている礼状については、放課後等を用いて、個別に対応していることがある。改めて、国語科の授業で取り上げ、手紙の構造、礼状の文体（公的な文書）と、私的な文書の文体について触れることにより、今後、生徒が手紙を書くときに、手紙の構造を理解し、文体を工夫し、自分の力で書くことができるようにしていきたい。そのため本単元を設定した。

「手紙」についての単元としては、1 年次「年賀状」～2 年次「手紙の構造」「公的な文書と

私的な文書」～3年次「メール、メッセージ」という予定で考えている。

授業の進め方としては、内容をパーツに分けて取り組む、オムニバス形式で行っている。必要な内容を時間で区切って取り組むことにより、集中を保ちながら学ぶことができる。授業の前半は、音読や物語を聞いたり、漢字を書いたり、文章を写したりなど、基本的な学習を行っている。国語の基礎的な力である「話す、聞く、読む、書く」については継続的な学習が必要であり、単元に関わらず、毎時間、20分程度を用いて行っている。授業の後半では、単元に関する内容を行う。

またペアで学習する場面を設けて、お互いに交流をしながら、課題を解決していくことができるようにしていく。

4 単元の全体目標

- ・宛名やあて先、郵便番号を書く位置などについて理解し、正しく書くことができる。
- ・礼状と私信の文体の違いに気づき、簡単な手紙の問題を解くことができる。

5 指導計画

	日 時	学習内容	目 標	使用教材
1	平成27年11月25日(水) 2校時 9:45～10:30	・音読 ・物語を聞く ・視写 ・漢字 ・はがき	・読む、聞く、書くなど様々な課題を解くことができる。 ・はがきの表書きを正しい書き方で書くことができる。	音読プリント 物語問題プリント 視写プリント 漢字プリント はがきプリント
2 本時	平成27年12月2日(水) 2校時 9:45～10:30	・音読 ・物語を聞く ・視写 ・漢字 ・封筒の表書き、裏書き	・読む、聞く、書くなど様々な課題を解くことができる。 ・封筒の表書きや裏書きについて、正しい書き方で書くことができる。	音読プリント 物語問題プリント 視写プリント 漢字プリント まちがい封筒 封筒プリント
3	平成27年12月9日(水) 2校時 9:45～10:30	・音読 ・物語を聞く ・視写 ・漢字 ・公的な文書と私的な文書の違い	・読む、聞く、書くなど様々な課題を解くことができる。 ・文書例を比べ、公的な文書と私的な文書の文体や表現の違いに気づくことができる。 ・文体を比べながら、簡単な手紙のワークを解くことができる。	物語問題プリント 視写プリント 漢字プリント 文書例プリント

6 本時の全体目標

- ・読む、聞く、書くなど様々な課題を解くことができる。
- ・封筒の表書きや裏書きについて、正しい書き方で書くことができる。

7 本時の展開

(1) 個別目標

名前	単元目標	本活動に対する実態	本時の目標	手だて	評価
A	・読む、聞く、書くなど様々な課題を解くことができる。 ・はがきや封筒の表書きや裏書きを行うことができる。 ・札状と私信の文体の違いに気付き、適切な表現を選んで、手紙を書くことができる。	・声の強弱に差があるが、簡単な文章や詩、絵本を音読することができる。 ・教師の話や童話などの物語を聞いて、問題に答えることができる。 ・小学校3年生程度の漢字を書くことができる。 ・5分間で100字程度視写をすることができる。 ・はがきの表書きをほぼ正しく書くことができる。	・相手の声を聞きながら、音読をすることができる。 ・物語を聞いて、問題に答えることができる。 ・封筒の表書きや裏書きを行うことができる。	・グループで、どの場所を読むのかを決めて、自分の番を読むために、相手の声を聞かないと行けない状況を設定する。 ・聞く問題は解答選択式の問題を出し、聞くことに意識できるようにする。 ・間違いがある封筒に数枚渡し、チームで比較しながら、正しい書き方を探し、学ぶことができるようにする。 ・黙っていたり、活動が止まっていたりしたら、言葉かけをする。	・相手の声を聞いて、自分の出番になると、声を出し、抑揚をつけて読むことができた。 ・封筒の裏書きは間違っていた。表書きかなり端の位置にあて先を書いていたものの、決められた内容を書くことができた。
B	・読む、聞く、書くなど様々な課題を解くことができる。 ・はがきや封筒の表書きや裏書きを行うことができる。 ・札状と私信の文体の違いに気付き、適切な表現を選んで、手紙を書くことができる。	・簡単な文章や詩、絵本を音読することができる。 ・教師の話や童話などの物語を聞いて、問題に答えることができる。 ・形の把握が苦手であり、漢字を読むことはできるが、書くことは小学校1年生程度である。 ・5分間で100字程度視写をすることができる。 ・問題の意図を読み誤り、はがきのあて先を	・相手の声を聞きながら、音読をすることができる。 ・物語を聞いて、問題に答えることができる。 ・封筒の表書きや裏書きを行うことができる。	・グループで、どの場所を読むのかを決めて、自分の番を読むために、相手の声を聞かないと行けない状況を設定する。 ・聞く問題は解答選択式の問題を出し、聞くことに意識できるようにする。 ・間違いがある封筒に数枚渡し、チームで比較しながら、正しい書き方	・相手の声を聞いて、自分の出番になると、声を出して読むことができた。 ・封筒の表書きはあて先を封筒の端に書いてあるが、決められた内容を書くことができた。裏書きは真ん中寄りではあるが、書くことができた。

		間違えて答えてしまっている。		を探し、学ぶことができるようにする。 ・問題の意図が伝わっているか確認し、間違っていたら、言葉がけをする。	
C	・読む、聞く、書くなど様々な課題を解くことができる。 ・はがきや封筒の表書きや裏書きを行うことができる。 ・礼状と私信の文体の違いに気付き、適切な表現を選んで、手紙を書くことができる。	・簡単な文章や詩、絵本を音読することができる。 ・教師の話や童話などの物語を聞いて、問題に答えることができる。 ・小学校3年生程度の漢字を書くことができる。 ・5分間で100字程度視写をすることができる。 ・はがきの表書きをほぼ正しく書くことができる。	・相手の声を聞きながら、音読をすることができる。 ・物語を聞いて、問題に答えることができる。 ・封筒の表書きや裏書きを行うことができる。	・グループで、どの場所を読むのかを決めて、自分の番を読むために、相手の声を聞かないと行けない状況を設定する。 ・聞く問題は解答選択式の問題を出し、聞くことに意識できるようにする。 ・間違いがある封筒に数枚渡し、チームで比較しながら、正しい書き方を探し、学ぶことができるようにする。 ・黙っていたり、活動が止まっていたりしたら、言葉がけをする。	・相手の声を聞いて、自分の出番になると、声を出して読むことができた。1回目よりも2回目の方が声を大きくし読むことができた。 ・封筒の表書きを書くことができた。
D	・読む、聞く、書くなど様々な課題を解くことができる。 ・はがきや封筒の表書きや裏書きを行うことができる。 ・礼状と私信の文体の違いに気付き、適切な表現を選んで、手紙を書くことができる。	・その日の気分によって左右されるが、基本的には、意欲的に活動に取り組むことができる。 ・簡単な文章や詩、絵本を音読することができる。 ・教師の話や童話などの物語を聞いて、問題に答えることができる。 ・小学校3年生程度の漢字を書くことができる。 ・5分間で100字程度視	・相手の声を聞きながら、音読をすることができる。 ・物語を聞いて、問題に答えることができる。 ・封筒の表書きや裏書きを行うことができる。	・グループで、どの場所を読むのかを決めて、自分の番を読むために、相手の声を聞かないと行けない状況を設定する。 ・聞く問題は解答選択式の問題を出し、聞くことに意識できるようにする。 ・間違いがある封筒に数枚渡し、チー	・相手の声を聞いて、自分の出番になると、声を出して読むことができた。 ・最初は、声が小さかったが、少しずつ大きな声を出しながら、読むことができた。 ・封筒の表書きと裏書きを正しい位置に書くことができた。

		写をすることができる。 ・はがきの表書きを書くとき、間違いに気づき、自分で直し、正しく書くことができる。		ムで比較しながら、正しい書き方を探し、学ぶことができるようにする。 ・黙っていたり、活動が止まっていたりしたら、言葉がけをする。	
E	・読む、聞く、書くなど様々な課題を解くことができる。 ・はがきや封筒の表書きや裏書きを行うことができる。 ・礼状と私信の文体の違いに気づき、適切な表現を選んで、手紙を書くことができる。	・話を聞くことが苦手であり、教師の指示を聞き直すことがある。 ・漢字や視写など一人で取り組むことができる課題は、素早く解くことができる。 ・簡単な文章や詩、絵本を音読することができる。 ・問題数が多いと答えられなくなるが、解答選択式の問題であれば、聞く問題に答えることができる。 ・小学校3年生程度の漢字を書くことができる。 ・5分間で100字以上の視写をすることができる。 ・取り組み方を確認すれば、はがきの表書きを書くことができる。	・相手の声を聞きながら、音読をすることができる。 ・物語を聞いて、問題に答えることができる。 ・封筒の表書きや裏書きを行うことができる。	・グループで、どの場所を読むのかを決めて、自分の番を読むために、相手の声を聞かないと行けない状況を設定する。 ・聞く問題は解答選択式の問題を出し、聞くことに意識できるようにする。 ・間違いがある封筒に数枚渡し、チームで比較しながら、正しい書き方を探し、学ぶことができるようにする。	・相手の声を聞いて、自分の出番になると、声を出して読むことができた。 ・封筒の表書きと裏書きを正しい位置に書くことができた。
F	・読む、聞く、書くなど様々な課題を解くことができる。 ・はがきや封筒の表書きや裏書きを行うことができる。 ・礼状と私信の文体の違いに気づき、適切な表現を選んで、手	・どの活動も意欲的に取り組むことができる。 ・簡単な文章や詩、絵本を音読することができる。 ・教師の話を聞いて、簡単な問題に答えることができる。 ・小学校3年生程度の漢字を書くことができる。 ・5分間で100字程度視	・相手の声を聞きながら、音読をすることができる。 ・物語を聞いて、問題に答えることができる。 ・封筒の表書きや裏書きを行うことができる。	・グループで、どの場所を読むのかを決めて、自分の番を読むために、相手の声を聞かないと行けない状況を設定する。 ・聞く問題は解答選択式の問題を出し、聞くことに意識できるようにする。	・封筒の表書きと裏書きを正しい位置に書くことができた。

	紙を書くことができる。	写をすることができる。		・間違いがある封筒に数枚渡し、チームで比較しながら、正しい書き方を探し、学ぶことができるようにする。 ・黙っていたり、活動が止まっていたりしたら、言葉がけをする。	
G	・読む、聞く、書くなど様々な課題を解くことができる。 ・はがきや封筒の表書きや裏書きを行うことができる。 ・礼状と私信の文体の違いに気付き、適切な表現を選んで、手紙を書くことができる。	・聞きたいこと話したいことを一方的にしゃべりだしてしまうことがある。 ・課題の切り替えに時間がかかり、遅れて取り組むことがあるが、課題には意欲的に取り組むことができる。 ・簡単な文章や詩、絵本を音読することができる。 ・教師の話や童話などの物語を聞いて、問題に答えることができる。 ・小学校3年生程度の漢字を書くことができる。 ・5分間で40字程度視写をすることができる。 ・はがきの表書きを書くとき、間違いに気づき、自分で直し、正しく書くことができる。	・相手の声を聞きながら、音読をすることができる。 ・物語を聞いて、問題に答えることができる。 ・封筒の表書きや裏書きを行うことができる。	・グループで、どの場所を読むのかを決めて、自分の番を読むために、相手の声を聞かないと行けない状況を設定する。 ・聞く問題は解答選択式の問題を出し、聞くことに意識できるようにする。 ・間違いがある封筒に数枚渡し、チームで比較しながら、正しい書き方を探し、学ぶことができるようにする。 ・話しすぎる場合があれば、言葉がけをする。 ・黙っていたり、活動が止まっていたりしたら、言葉がけをする。	・封筒の表書きを正しい位置に書くことができた。

(2) 協同学習の観点

- | |
|--|
| ①「 <u>互恵的な相互依存性</u> 」 ②「 <u>対面的なやりとり</u> 」 ③「 <u>個人の責任</u> 」
④「 <u>ソーシャルスキル</u> 」 ⑤「 <u>チームのふりかえり</u> 」 |
|--|

本時では、意図的にペアやグループを作って取り組む場面を設定している。

まず音読では、一人ひとりが読むだけではなく、グループを作り、誰がどこを読むか決めさ

せる。また順番に読むことで、お互いに聴き合いながら音読をすることができるようにしていく。

封筒についての学習では、ペアを作る。ペアに与える課題は一つ一つ異なり、お互いに話し合いながら課題を解決させていく。また課題を終えても、ペアで確認をしに教師とのところへ来るようにすることや、ペアを作ったときに「よろしくお願いします。」と声をかけさせるなど、ペアを意識させる。

グループやペアの活動時は、教師はなるべく見守る形で関わるが、活動に行き詰まったり、お互いの関わりが少なくなったりしたとき、必要に応じて、指示や言葉がけを行う。生徒自身で取り組むことができるように、方法を黒板に示して見通しを持たせ、生徒たちで解決ができるようにしていく。

なお、生徒数が奇数のため、ペアを作る場面は、2人のチームが2つ、3人のチームが1つとなる。

(3) 本時の展開

過程 時間	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材・教具
導入	挨拶	・はじめのあいさつをする。	・はじめのあいさつをする。	
展開	音読 (7分)	○ プリント①を受け取る。 ○ 教師の後に読む。 ○ <u>全員で集まり、どこを読むか決める。</u> ○ <u>自分が決めたところを順に読んでいく。</u>	○ 音読、聞く、視写の進行はT1。 ○ プリント①を配布する。 ○ 範読の後、追い読みを行う。 ○ <u>全員で集まり、誰がどこを読むか決めるように伝える。</u> ○ <u>全員で順番に読ませる。</u>	プリント①音読 プリント②視写 (原稿用紙) プリント③物語問題 プリント④漢字 プリント⑤漢字2 ⑥まちがい封筒 プリント⑦封筒 プリント⑧視写プリント (市販)
	視写 (5分)	○ プリント③を受け取る。 ○ 5分間でできる範囲で視写を行う。	○ プリント③を配布する。 ○ 時間を図って取り組ませる。 ○ 時間がきたら提出させる。 ○ 早く終わったら、別のプリント (プリント⑧) を与える。	
	聞く (5分)	○ プリント②を受け取る。 ○ 教師が読む物語を聞く。 ○ 問いに答える。 ○ 丸付けをする。	○ プリント②を配布する。 ○ 簡単な物語を読み聞かせる。 ○ 選択問題を解かせる。 ○ 丸付けをする。	
	漢字 (5分)	B以外 ○ プリント④を受け取る。 ○ 問題を解く B ○ プリント⑤を受け取る。 ○ 丸付けをする。	○ T2がプリント④を配布する。 ○ プリント④を解かせる。 ○ T1がプリント⑤を配布する。 ○ 漢字の問題を聞かせ解答させる。 ○ 解答を言い、丸付けをさせる。 ○ 間違えた問題は1分練習させる。	

	封筒について	○ 間違えた漢字を練習し、再度解く。 ○ 丸付けをする。 ○ <u>ペアになる。</u> ○ 教師が書いた封筒 (⑥) を受け取る。 ○ <u>ペアで封書の表書きと裏書きを見て、封筒 1 つにつき 2 箇所間違いがあるので、赤でチェックする。</u> ○ <u>赤でチェックした部分をペアで確認する。</u> ○ <u>ペアで T2 の確認を受ける。</u> ○ プリント⑦に、宛先、宛名、郵便番号、送り主の郵便番号、住所、送り主の氏名を書く。 ○ <u>プリント⑦をお互いに解き終えたら、ペアで交換し、確認する。</u> ○ <u>確認が終わったら、T2 に丸付けをしてもらう。</u> ○ 間違えたら、もう 1 度プリント⑦を受け取り、取り組む。 ○ <u>ペアで確認し、再度 T2 に丸付けをしてもらう。</u> ○ 早く終わったペアは視写プリント (プリント⑧) をもらい、取り組む。	○ 再度問題を言い、解かせる。 ○ 解答を言い、丸付けをさせる。 ○ <u>ペアを作らせる。</u> ○ ペアになって、問題を解決すること伝える。 ○ <u>あらかじめ間違えて表書きと裏書きをしてある封筒 (⑥) を各ペアに複数枚配る。おかしい点が封筒 1 つにつき 2 箇所あることを伝え、赤色でチェックさせる。</u> ○ <u>赤でチェックした部分をペアで確認させる。</u> ○ <u>ペアのチェックが終わったら、T2 のところへ行く。T2 がチェックする。</u> ○ T2 がチェックを終えたら、プリント⑦に取り組ませる。 ○ <u>プリント⑦に取り組んだらペアで封筒を交換し、お互いに確認をさせる。</u> ○ T2 が丸付けをし確認する。 ○ 間違えていたら T1 からプリント⑦をもらう。 ○ 早く終わったペアは T1 が視写プリント (プリント⑧) を渡す。	
整理	次回予告	○ 次回予告を聞く。	○ 次回はサンタに手紙を用いた学習を行うことを伝える。	
	あいさつ	○ 終わりのあいさつをする。	○ 終わりのあいさつをする。	

8 評価

(1) 学習の評価

- ア 本時の全体目標は達成されたか。
 イ 個別目標の評価は達成されたか。

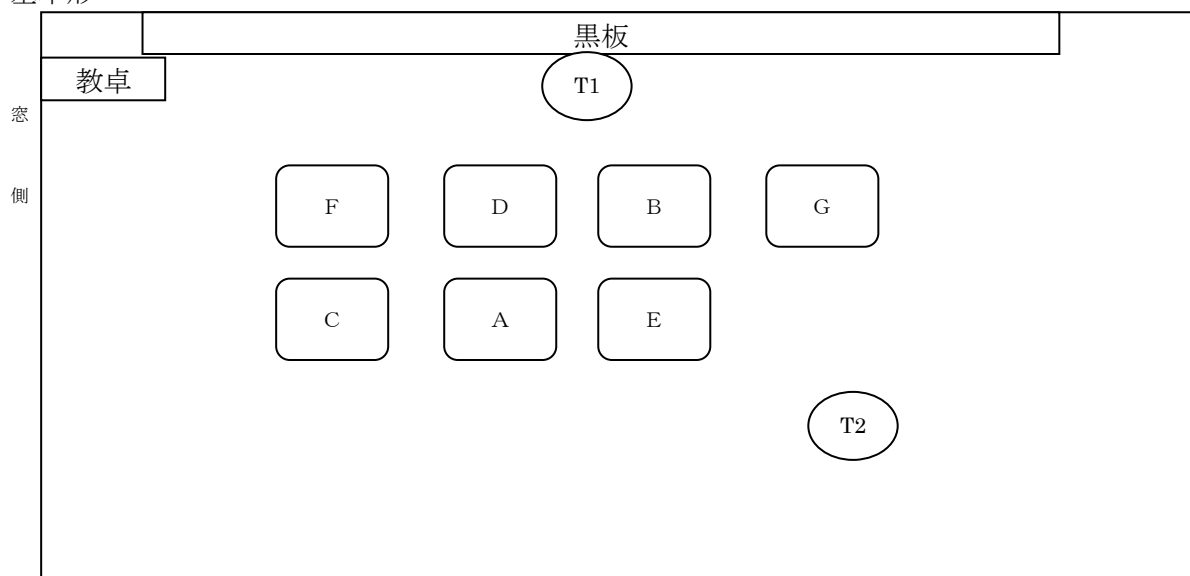
(2) 授業の評価

観 点		評 価
授業の設計	① 学習指導案に適切な内容が盛り込まれていたか。 ② 目標・手立ては明確になっていたか。 ③ 導入・展開・整理の流し方や、時間配分は適切であったか。 ④ その他	② 目標や手立ては明確にしてあるが、評価基準にあいまいさがあった。 ③ 内容を盛り込みすぎて、見通しに甘さがあった。時間内にメインの封筒の学習を終えることができなかった。展開に前時の復習が含まれておらず、どの内容も唐突だった。

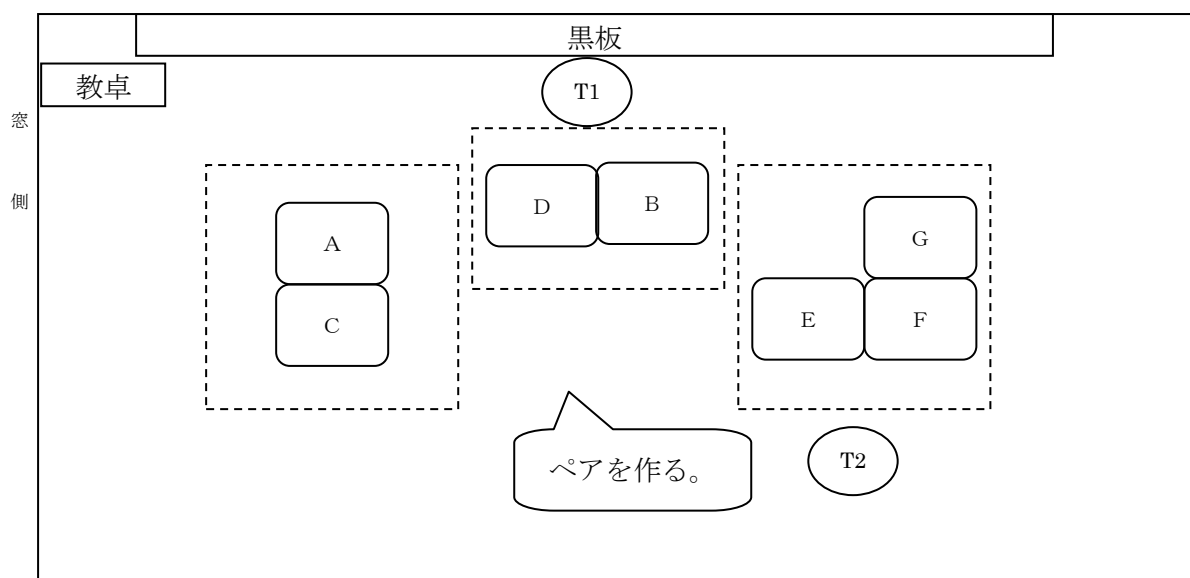
授業の展開	① 生徒の学習に取り組む姿は自ら学ぶものになっていたか。 ② 全体・個別に対する働きかけは適切であったか。 ③ TTのあり方（役割の明確、位置等）は適切であったか。 ④ 教材・教具は適切であったか。	① 内容は多かったものの、与えられた課題に対して、わからなかったときに聞いたりするなど、自分から取り組む姿が見られた。 ② 教師の指示に対しての確認に甘さがあり、指示通りに取り組めていない生徒がいたことを見逃していた。言葉がけでの指示が多く、活動の取り組み方についても、わかっていない生徒がいて、視覚的な表示などがあるとよりわかりやすかったのではないかと。 ③ 役割分担を事前にしてあったため、スムーズに取り組むことができた。 ④ 用意した教材は多様であり盛り込みすぎたものの、生徒の学ぶ姿勢から考えると、適切であったと考える。
協同学習	① 「互恵的な相互依存性」	A B ㊦ D
	② 「対面的なやりとり」	A ㊦ C D
	③ 「個人の責任」	A B ㊦ D
	④ 「ソーシャルスキル」	A B C D
	⑤ 「チームのふりかえり」	A B C D

※A～よくできた B～おおむねできた C～少しだけできた D～十分ではない

9 配置図 基本形



封筒の学習時



10 資料

- ・別紙 1 プリント①音読
- ・別紙 2 プリント③物語問題
- ・別紙 3 プリント④漢字
- ・別紙 4 プリント⑤漢字 2
- ・別紙 5 まちがい封筒
- ・別紙 6 プリント⑦封筒
- ・別紙 7 プリント⑧視写プリント

【全員授業研究 ふりかえりレポート】

単元・題材名	国語「手紙を書こう」	生徒	産業科 2 年 1 名 農業科 2 年 5 名 生活家庭科 2 年 1 名
		場 所	農業科 2 年教室
日 時	平成 27 年 12 月 2 日（水）2 校時	授 業 者	野呂 篤志

音読をする場面と封筒の書き方の学習の場面で、グループでの活動、ペアでの活動を取り入れた。特に封筒の書き方の学習では、生徒同士が関わりを持たないと課題を解決することができない場面設定にしたため、実際に、声を掛けたり、お互いに関わり合ったりする様子が見られた。普段自分から生徒に声を掛けることが少ない生徒が声を掛けている姿を見たとき、協同学習はお互いのコミュニケーションを増やすことにつながるのではないかと感じた。今後も、場面設定や方法を考え、取り組んでいきたいと思う。

しかし、課題もあった。まずは、生徒に相互依存性を持たせるための設定が難しいことがあげられる。どのような内容の活動を、どのように取り組むかは示すことはできるが、お互いが前向きに持ちつ持たれつの関係になるには、わかりやすく、そして、チームとして「やるぞ!」と思えるような目標設定や、それをはっきりと提示する必要があるだろう。次に、ペアやチームで取り組むときに、どのようなコミュニケーションスキルを身につけさせるのか、具体的なソーシャルスキルが無いまま学習に取り組ませていることである。ただ話し合いなさいでは活動は難しい。ロールプレイ等で取り組み方を示すことや標的行動を決めておくなど、授業を工夫していきたい。

3 学年数学「時刻と時間」 学習指導案

月 日	平成 2 7 年 1 2 月 9 日 (水)
場 所	生活家庭科 3 年教室
時 間	1 3 : 0 5 ~ 1 3 : 5 0
対 象	生活家庭科 3 年 6 名
指導者	T1 阿部昌弘 T2 鈴木絢子

1 単元名 「時刻と時間」

2 生徒の実態

3 学年の数学科では、生徒の実態に応じて 4 グループに分けて授業が行われている。

本グループの生徒達は、生活家庭科に在籍している男子生徒 6 名である。IQ は 4 4 ~ 5 9 であり、知的障害、自閉症スペクトラムがある。

単元に関わる実態としては、時計やストップウォッチなど操作活動を取り入れた授業には意欲的に取り組むが、数学に対して苦手意識があり、くり上がり、くり下がりのような細かい数字の操作のいる時間の計算活動には集中力を欠く生徒もいる。計算力は時間におけるくり上がり、くり下がりのある計算ができる生徒から、くり上がり、くり下がりのない時間の計算ができる生徒まで様々である。また、生活経験が少ないため、時刻に関しては、見ただけで長針と短針の位置から 8 時 2 1 分のような細かい正確な時刻を読み取れる生徒から長針の位置を見て、文字盤の目盛をかぞえて正確な時刻を読み取れる生徒もいる。

時間においては、時刻から時刻の間を意識して活動し、時刻の違いから時間を計算できる生徒や、始まりの時刻と終わりの時刻を具体的に指示し、時計の長針を動かすことで意識できる生徒もいる。

3 単元について

本単元では「時刻と時間」について指導する。

時刻や時間を知ることは、見通しを持って社会生活を送る上で大切なことであり、自分でスケジュールを組んで生活する現代社会においては必要不可欠な能力である。学校生活においても、授業の開始時刻を意識することで教室移動のときの目安にしたり、移動する距離によって何分前に行動する、何分に出発するなどの手がかりになる。

本単元では実際の時計やストップウォッチを使って時刻や時間の学習を行う。学校生活や寄宿舎生活の時刻に当てはめ時計の正確な読み方や時間の計算を行っていく。さらに、別の場所に移動したり、1 日を行動するためのスケジュールや旅行計画などを組むなど余暇の充実にも役立つのではと考え、この単元を設定した。

4 単元の全体目標

- ・時刻を正確に読みとることができる。
- ・時計を使って時間を知ることができる。
- ・時刻の違いから、時間を計算することができる。

5 指導計画

	日 時	学習内容	目 標	使用教材
1	平成27年 11月25日(水) 5校時	- 時刻と時間の違い - 時間の体験	- 時刻を正確に読める。 - 時間について分かる。	学習プリント ① ② 時計、 ストップウォッチ
2	平成27年 12月2日(水) 5校時	- 時計を使った時間の求め方(1時間、2時間等) - 時間の経過と時刻の関係	- 時間を求めることができる。 - 時刻と時間の関係が分かる。	学習プリント ① ② 時計(イラスト) 時計(手動)
3 本時	平成27年 12月9日(水) 5校時	- 時計を使った時間の求め方(10分間、25分間等) - 簡単な時間の計算	- 時計を使って分間を求められる。 - 時刻の違いから時間を計算して求めることができる。	学習プリント ③ ④ ⑤ 時計(イラスト) 時計(手動)

6 本時の全体目標

- ・正確な時刻を読み取る事ができる。
- ・時間を求めることができる。
- ・時間の計算を行える。

7 本時の展開

(1) 個別目標

名前	単元目標	本活動に対する実態	本時の目標	手だて	評価
A	- 時刻を読み取ることができる。 - 時間を知ることができる。	- 時刻は、7時や6時30分など長針が分りやすい位置にある時刻を読み取れる。 - 時間については、時計を操作し長針がいくつ動いたかを数えることで知ることができる。	- 細かい時刻(2時12分など)を読み取ることができる。 - 時間(分単位)をもとめることができる。	時計のイラストの針の操作で時刻の違いを確認させながら時間を求めさせる。	文字盤の目盛を数えて時刻を求める事ができた。時間を求められた。
B	- 時刻を細かく、正確に読みとることができる。 - 時間を知り、計算することができる。	- 時刻は、長針、短針の位置をただけで8時34分など細かく正確に読み取れる。 - 時間は時間のみ、分間のみなど、どちらかに限定すれば計算できる。	- 時計をただけで細かい時刻(2時12分など)を読み取ることができる。 - 時間(分単位)を計算することができる。	計算式に時刻を正確に書かせることで時間を計算させる。	当日欠席

C	- 時刻を細かく、正確に読みとることができる。 - 時間を知り、計算することができる。	- 時刻は、長針、短針の位置をただで8時34分など細かく正確に読み取れる。 - 時間は時間のみ、分間のみなど、どちらかに限定すれば計算できる。	- 時計をただで細かい時刻（2時12分など）を読み取ることができる。 - 時間（分単位）を計算することができる。	計算式に時刻を正確に書かせることで時間を計算させる。	時刻を細かく読みとり、その関係から時間を求める事ができていた。
D	- 時刻を正確に読み取ることができる。 - 時間を知ることができる。	- 時刻は、7時や6時30分など長針が分りやすい位置にある時刻を読み取れる。 - 時間は時間のみ、分間のみなど、どちらかに限定すれば分かる。	- 細かい時刻（2時12分など）を読み取る事ができる。 - 時間（分単位）をもとめることができる。	時計のイラストの針の操作や計算式に時刻を正確に書かせることで時間を求めさせる。	目盛を数えて時刻を細かく読みとれた。時間を求める事ができていた。
E	- 時刻を細かく、正確に読みとることができる。 - 時間を知り、計算することができる。	- 時刻は、長針、短針の位置をただで8時34分など細かく正確に読み取れる。 - 時間は時間のみ、分間のみなど、どちらかに限定すれば計算できる。	- 時計をただで細かい時刻（2時12分など）を読み取ることができる。 - 時間（分単位）を計算することができる。	計算式に時刻を正確に書かせることで時間を求めさせる。	時刻を細かく読みとれた。目盛を数えて時間を求める事ができていた。
F	- 時刻を細かく、正確に読みとることができる。 - 時間を知り、計算することができる。	- 時刻は、長針、短針の位置をただで8時34分など細かく正確に読み取れる。 - 時間は時間のみ、分間のみなど、どちらかに限定すれば計算できる。	- 時計をただで細かい時刻（2時12分など）を読み取ることができる。 - 時間（分単位）を計算することができる。	時計のイラストの針の操作や計算式に時刻を正確に書かせることで時間を求めさせる。	時刻を細かく読みとれていた。数字と目盛を組み合わせて時間を求める事ができていた。

（2）協同学習の観点

- | | | |
|-----------------------|-----------------------|-------------------|
| ①「 <u>互恵的な相互依存性</u> 」 | ②「 <u>対面的なやりとり</u> 」 | ③「 <u>個人の責任</u> 」 |
| ④「 <u>ソーシャルスキル</u> 」 | ⑤「 <u>チームのふりかえり</u> 」 | |

本時ではペアを作り活動する場面を設定する。

問題で指定された時刻をプリントに書き入れ、ペアを組んだ仲間と話し合っ自分たちの担当した問題の答えを黒板に貼られたプリントの拡大版に書き入れる。プリントに書かれた時計のイラストの右の時計に記入するか、左の時計に記入するか、時刻や時間の記入をそれぞれが責任をもって、担当させる。

(3) 本時の展開

過程 時間	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材・教具
導入 (5分)	挨拶 前時の復習 本時の学習	○ 代表者にあわせて挨拶をする。 ○ これまで学んだことを復習する。 ・時刻の読み取り。 ・時間の経過（時間）を求める。 ○ 今日の問題について知る。 ・時間の経過（分間）を求める。 ・時間の計算をする。	○ 日直に挨拶するよう指示する。 ○ プリントを見返して前時に学んだことを確認する。 T 1 ○ AとDの支援。 T 2 - 時刻と時間の違い ・時刻は現在をさすもの。 ・時間は時刻と時刻の長さ、間。 ○ 口頭で今日の学習内容を説明し、プリントを配る。 ・説明ののちプリントを配布する。 (前時までのプリントはしまわせる。)	○プリント教材 (これまでのもの) ○時計のイラスト（大） ○プリント 3 4
展開 (35分)	プリントへの記入（7分） プリント拡大版への書き込み イラストの操作での確認（13分） プリントへの記入と計算（15分）	○ プリントの記入 プリントにある問題を解く。 ○ <u>プリント3 4の拡大版への板書指定された問題をプリント3 4の拡大版に書入れる。</u> ○ <u>時計の操作</u> <u>イラスト(大)の時計の針を操作し、時刻の経過を再現して、針の動いた数で何分間時が経ったかを確認める。</u> ○ 時刻の計算 今までのプリントのイラストの時間を計算式に当てはめ、計算して時間を求める。	○ 時間を決めてイラストの時刻をプリント3 4に記入させる。 T 1 ○ AとDの支援。 T 2 ○ <u>生徒を2名指名し、話し合わせて上で、プリント3 4の拡大版へ板書させる。</u> T 1 ○ <u>答が正しいか確認させるため、時計のイラスト(大)針を操作させ経過前の時刻と経過後の時刻を再現させ長針を動かした数を数えさせ、時間を求めさせる。</u> T 1 ○ プリント1 2 3 4に書かれた時刻をプリント5の計算式に正確に当てはめさせ、教師が例題を使って説明した後、生徒自身に時間を計算させていく。 T 1 ○ AとDの支援。 T 2	○プリント 3 4の拡大版 ○手動式時計 ○時計のイラスト（拡大） ○プリント 5 ○プリント5の拡大版
整理 (5分)	まとめ 予告 挨拶	○ 次回の学習内容を聞く。 ○ 終わりの挨拶をする。	○ 次回の内容を発表する。 ○ 日直に挨拶させる。	

8 評価

(1) 学習の評価

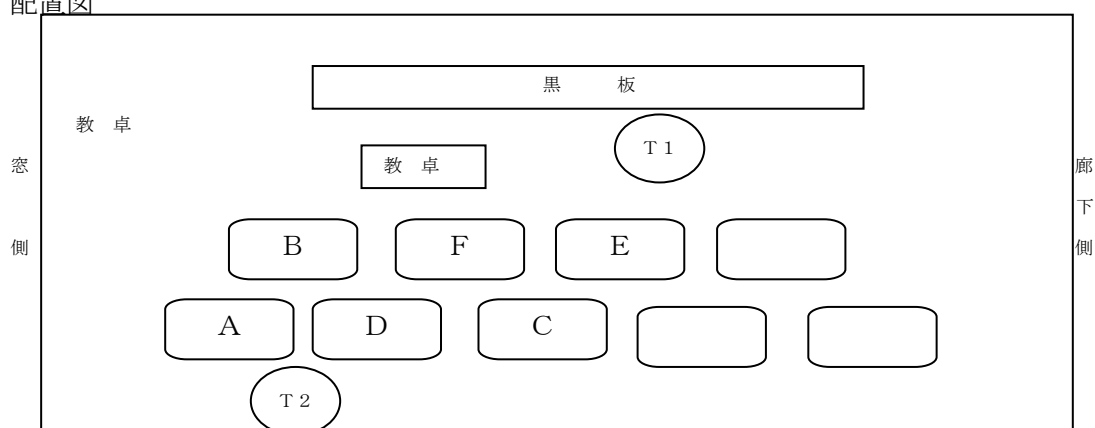
- ア 本時の全体目標は達成されたか。
- イ 個別目標の評価は達成されたか。

(2) 授業の評価

観 点		評 価
授業の設計	① 学習指導案に適切な内容が盛り込まれていたか。	① 内容は適切であった。
	② 目標・手立ては明確になっていたか。	② 目標はよかったが、手立ての説明が今ひとつであり、生徒に教師の話が伝わりきってないことがあった。もう少し発問や説明をする言葉を精選すべきだった。
授業の展開	③ 導入・展開・整理の流し方や、時間配分は適切であったか。	③ 量や時間の配分に無理があり展開が滞るところが何カ所もあった。
	④ その他	
協同学習	① 生徒の学習に取り組む姿は自ら学ぶものになっていたか。	① 生徒は自ら動いていたが、説明不足から活動の順序や内容を把握し切れてない様子が見られた。
	② 全体・個別に対する働きかけは適切であったか。	② 生徒にもっと話し合う内容を具体的に指示するべきであった。
協同学習	③ T T のあり方（役割の明確、位置等）は適切であったか。	③ 2 グループになったのなら、1 グループに 1 人ずつ教師がついて話し合い活動を促すよう支援すべきであった。
	④ 教材・教具は適切であったか。	④ 教材教具はよかった。
協同学習	① 「互恵的な相互依存性」	A B (C) D
	② 「対面的なやりとり」	A B (C) D
	③ 「個人の責任」	A (B) C D
	④ 「ソーシャルスキル」	A B C D
	⑤ 「チームのふりかえり」	A B C D

※A～よくできた B～おおむねできた C～少しだけできた D～十分ではない

9 配置図



10 資料

プリント 1、プリント 2、プリント 3、プリント 4、プリント 5、
 プリント 3 の拡大版、プリント 4 の拡大版、プリント 5 拡大版、
 時計の拡大イラスト (6)

【全員授業研究 ふりかえりレポート】

単元・題材名	数学「時刻と時間」	生徒	生活家庭科3年生徒6名
		場所	生活家庭科3年教室
日 時	平成27年12月9日（水）5校時	授業者	阿部 昌弘
数学で答を板書する時にペアを組んで、生徒同士で話し合わせて板書する箇所や分担を決めさせる活動を取り入れた。いつもこちらから指示して答を書かせているので生徒達が上手く話し合えるか心配だったが、生徒達はグループ内できちんと話し合って分担を決めて解答できていた。 しかし、説明や発問の言葉が不適切な事もあり、生徒にこちらの意図することが伝わり切れていなかった面があり、問題を解くことはできたが、一問解答するのにかなりの時間がかかり、予定していた内容の半分しかこなせなかった。また話し合いの内容が役割分担のみで、プリントの解答が間に合わなかった生徒にできた者が答えを教えあって相手をカバーし合うところまで話が進まず、生徒の活動が滞る場面が見られた。こちらの意図が生徒に確実に伝わるよう説明や発問の言葉をもっと精選すべきであった。教材の準備は万全であったが、授業展開の不備から生かし切れない面があり、導入はよかったが、授業の展開がもたついてしまった。生徒達の話し合い活動や相互依存性を引き出すために、ペアを組んで話し合う内容を具体的に提示し、生徒の様子を見ながら発問や説明の言葉をよりよいものを選択し、発問していくことで、もっと深く話し合える環境を作れるような工夫を行っていきたい。			

1 学年 作業学習「窯業（カップ作り）」学習指導案

月 日	平成 27 年 12 月 17 日（木）
場 所	窯業作業室
時 間	9 : 45 ~ 12 : 15
対 象	1 学年産業科 8 名
指導者	T1 石黒駿太 T2 小松裕樹 T3 高山愛望

1 題材名 「窯業（カップ作り）」

2 生徒の実態

1 年産業科の生徒は IQ 63 ~ 78 の間であり、平均値は 70 である。ちなみに女子平均値は 67、男子平均値は 73 である。自閉症が 2 名、ADHD が 2 名となっている。

産業科では作業学習において、窯業作業に 1 年間継続して取り組んでいる。1 年生は、入学した当初より、粘土の扱い方や、成形の方法、道具の扱い方、清掃などの基本的な技術、挨拶、返事、仲間への声かけなど基本的な態度について継続して学習してきた。

技術面については、例えば、丸皿作りにおいては、約 20 分程度で成形を終えることができるようになってきた。また、修正する箇所も少なく、完成度も高くなってきている。

態度面については、元気の良い明るい挨拶や返事を意識して取り組むことができる。しかし、「ありがとうございます」などのお礼の言葉や、「ごめんなさい」「すみませんでした」などの謝罪の言葉を言うことが少なく、相手のことを意識しつつも、自分本位で作業に取り組むところが課題である。

生產品販売で製品を完売することができ、全体的に学習に対する意欲が高い生徒が多い。学校祭明けに振り返り、「作れる製品を増やす」「皿を丁寧にする」など新しい目標を掲げて、さらに意欲的に取り組もうとする姿が見られる。意欲の高さを生かし、新しい技術を習得させ、働くために必要な態度を学ばせていきたいと考える。

3 題材について

1 年生は入学以来、窯業製作の基礎的な学習を行ってきた。「丸皿」「四角皿」などを作ってきており、11 月に生產品販売を行うなど、基礎的な技能や作業態度がある程度身についてきている。粘土の扱いにも慣れてきた。そこで、応用的な題材としてコーヒーカップ作りを設定した。コーヒーカップ作りでは、「丸皿」や「四角皿」の成形よりも使用する道具が多く、作業工程も複雑になる。今まで学んできた技術を活用し、確かめながら取り組むようにしていきたい。

また、よりづくりなど、今後に必要な技術が盛り込まれている作業になる。新しい技術を学びつつ、2 年生の作業にもつながっていくことができるようにしていきたい。態度面については、今まで取り組んできた挨拶や返事は継続し、作業工程が複雑になることから、さらに必要な声かけなどを意識して取り組むことができるようにしていきたい。

4 題材の全体目標

- ・ コーヒーカップを作るために必要な技術を身につけることができる。

- ・働くために必要な基本的な態度を身につけることができる。
- ・状況に応じた望ましいコミュニケーションをとりながら働くことができる。

5 指導計画

	日 時	学習内容	目 標	使用教材
1	平成 27 年 11 月 25 日 (水) 6～7 校時	・底板の成形	・道具の名称や使い方について理解することができる。 ・作業工程を理解することができる。 ・仲間と声を掛け合い、協力して仕事をするができる。	・カップ作りに必要な道具
2	平成 27 年 11 月 26 日 (木) 2～4 校時	・側板の成形 ・接合 ・よりづくり	・上記と同様	・上記と同様
3	平成 27 年 11 月 27 日 (金) 2～4 校時	・仕上げ	・上記と同様	・上記と同様
4～ 10 本時	平成 27 年 12 月 2 日 (水) ～12 月 17 日 (木)	・教師の説明を受けずに、 カップ作り (本時は10回目)	・作業工程を理解することができる。 ・丁寧に仕上げるができる。	・上記と同様

6 本時の全体目標

- ・作業工程を理解し、丁寧に仕上げるができる。
- ・仲間と声をかけあい、協力して仕事をするができる。

7 本時の展開

(1) 個別目標

名前	題材目標	本活動に対する実態	本時の目標	手だて	評価
A	・作業工程を理解することができる。 ・丁寧に仕上げるこ とができる。 ・仲間と声をかけあ い、協力して作業 をする。	・作業工程はメモに記入し、製作時にはメモを見ずに作ることができる。 ・カップのぐらつきも少なく、 丁寧に仕上げるこ とができ てきている。 ・声かけ時に、言い方や表情 が暗いことが多い。	・仲間との声かけ時に 言い方や表情を明 るく接することができる。	・言い方や表情が暗い ときは例示しながら 指導する。	・作業工程を理解 し、作業を進める ことができた。 ・カップに修正す る箇所がなく、 丁寧に仕上げて いた。 ・笑顔で声かけし、 離れるときに仲 間への声かけも 行っていた。
B	・作業工程を理解 す ることができる。 ・丁寧に仕上げる こ とができる。	・作業工程はメモに記入し、 製作時にはメモを見ず に作ることができる。 ・カップの接合や底板づく りなどで雑になるこ が多い。	・作り方の基準を理解 し、一つ一つ確認し ながら作業するこ とができる。	・次の作業に行く前に 細かく 確認させる。 ・基準を伝える。	・工程は理解し ながら、作業 を進めてい る。 ・返事をしてい ない場面が見 られた。

					・質問をしている。 ・底板を失敗
C	・作業工程を理解することができる。 ・丁寧に仕上げるこ とができる。	・作業工程はメモに記入し、成形時にはメモを見ずに作ることができる。 ・カップの接合や底板づくりなどで雑になることが多い。	・作り方の基準を理解し、一つ一つ確認しながら作業することができる。	・次の作業に行く前に細 かく確認させる。 ・基準を伝える。	・作業工程を理解し、作業を進めている。 ・底板で失敗。 ・ペアに「こうしたらうまくいく」などと助言をしている。
D	・作業工程を理解することができる。 ・丁寧に仕上げるこ とができる。	・作業工程は理解していない部分があるが、わからないことや不安な部分があったら教師に聞くことができる。 ・他の生徒よりもカップ作りの経験が少ない。	・作り方の基準を理解し、一つ一つ確認しながら作業することができる。	・次の作業に行く前に細 かく確認させる。 ・基準を伝える。	・作業を工程を理解していないが、一つひとつ質問しながら作業を進めている。 ・集中できていない場面があった。
E	・作業工程を理解することができる。 ・丁寧に仕上げるこ とができる。	・作業工程はメモに記入し、覚え、成形時にはメモを見ずに作ることができる。 ・丁寧に仕上げることができてきているが、失敗が続くと雑になってしまう。	・状況に左右されず、求められる基準に達する製品を作ることができる。	・気持ちの問題のときは切り替えさせる。	・作業工程を理解し、作業を進めている。 ・カップの修正がなく、丁寧に仕上げることができた。
F	・作業工程を理解することができる。 ・丁寧に仕上げるこ とができる。	・作業工程はメモに記入し、成形時にメモを見て作ることができる。 ・作り方の基準を自分で判断して作業を進めていることが多い。 ・わからないことがあっても質問せず、自分で判断してしまうことがある。	・自ら質問や確認をしながら、丁寧に作業をすることができる。	・次の作業に行く前に細 かく確認させる。 ・基準を伝える。	・作業工程を理解し、作業を進める。 ・カップの修正がなく、丁寧に仕上げることができた。

G	- 作業工程を理解することができる。 - 丁寧に仕上げるこ とができる。	- 作業工程はメモを活用せず に覚え、カップを作ることができる。 - 粘土の状態が悪いなどの原因で失敗が続き、雑になってしまう。	状況に左右されず、求められる基準に達する製品を作ることができる。	気持ちの問題のときは切り替えさせる。	- 作業工程を理解し、作業を進める。 - カップの修正がなく、丁寧に仕上げるこ とができた。
H	- 作業工程を理解することができる。 - 丁寧に仕上げるこ とができる。	- 作業工程はメモに記入し、製作時にメモを見て作るこ とができる。しかし、メモに記入している内容に間違いがあり失敗してしまう。 - 作り方の基準を自分で判断して作業を進めていることが多い。 - わからないことがあっても質問せず、自分で判断してしまうことがある。	自ら質問や確認をしながら、丁寧に作業をすることができる。	- 次の作業に行く前に細かく確認させる。 - 基準を伝える。	- メモの記入間違い。 - 前回に比べると修正箇所が少ない。

(2) 協同学習の観点

- | |
|--|
| ①「 <u>互恵的な相互依存性</u> 」 ②「 <u>対面的なやりとり</u> 」 ③「 <u>個人の責任</u> 」
④「 <u>ソーシャルスキル</u> 」 ⑤「 <u>チームのふりかえり</u> 」 |
|--|

本時では、ペアで活動する場面を設定する。

道具の準備や、道具をお互いに使用するとき、片付け、清掃では、ペアで声を掛け合う場面（報告・連絡・相談）を設定する。

さらに、清掃では約20分以内で取りまわせることで、生徒が残り時間を全体に伝えたり、時間内に間に合わなそうので掃除時間を延長してもらうかを相談したりと声を掛け合う場面を設定する。

(3) 本時の展開

過程 時間	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材・教具
----------	------	-------	-------	-------

導入 9:45 ～	挨拶 内容と目標の 理解	○ 各自、各係で使う道具を揃えて用意する。 ○ 始業の挨拶をする。 ○ T1からの説明を聞く。 ○ 本時の内容・目標を確認する。 ○ 次にSTより何かあれば一言	○ 係の枠を超えて協力して準備させる。 ○ 本時の作業内容や注意点を話す。	○作業着 ○筆記用具、エプロン、タオル
展開 9:50～	カップ製作	○ ペアに分かれて、作業を行う。 ○ F、Hは作業台1に、C、Dは作業台2に、E、Gは作業台3に、A、Bは作業台4に移動する。 ○ 成形に必要な道具をペアで確認し、協力して準備する。 ○ 基本的な工程は以下の通りだが、前回の続きから行う。 ○ 粘土を練る。 ○ 底板の成形を行う。 ○ 側板の成形を行う。 ○ 底板と側板を接合する。 ○ よりをつくり、カップの中に入れ整える。 ○ カップの内側と外側を整える。 ○ 報告後、必要に応じて修正をしたり、乾燥のために、棚の上に置く。 ○ すべて終わったら、もう一度カップを作る。	○ T1は、作業台1・2を、T2は作業台3を、T3は作業台4を中心に見る。 ○ わからないことがあれば、自分から相手に聞いて解決をするようにしていく。 ○ ペアで解決できないときは、教師に聞いて解決をするようにしていく。 ○ 作業の工程がわからなくなったり、使う道具を間違っていたり、正しい作り方をしていないことがあれば、必要に応じて指導する。 ○ 連絡・相談・報告、表情や言い方など、働くために適切な態度であるか確認し、必要に応じて指導する。	○カップ製作に必要な道具 ・白土 ・ろくろ ・のべ棒 ・たたら板 ・布 ・ぞうきん ・バケツ ・ボウル ・霧吹き ・針 ・定規 ・切り糸 ・はかり ・どべ ・えごて ・つげべら ・ななめ板 ・階段板 など
11:45 ～	清掃	○ <u>20分以内に終えることを目標に、役割分担や、報告、連絡、相談、状況判断を意識して、掃除に取り組む。</u> ○ 清掃が時間内に終わりそうにないときは、生徒らが全体を確認し、教師に報告する。	○ 清掃道具の使い方や、清掃の方法、時刻の連絡、仲間での言葉がけなど、清掃の技術や態度について、必要に応じて指導する。	○清掃に必要な道具
整理 12:05 ～	全体反省 挨拶	○ 各指導者からの反省を聞いて、各自の取り組みを振り返る。 ○終業のあいさつをする。 (時間に余裕がある場合、作業ファイルを記入する。)	○ 生徒の達成感や反省点を振り返らせるために、発問を交えながら、良かった点や改善すべき点を伝える。	

8 評価

(1) 学習の評価

ア 本時の全体目標は達成されたか。

Dの生徒はカップ作りの経験が少なく、Hの生徒はメモの記入間違いで、作業工程を理解していない場面がありました。また、丁寧さは前回に比べ、全員上達してきている。

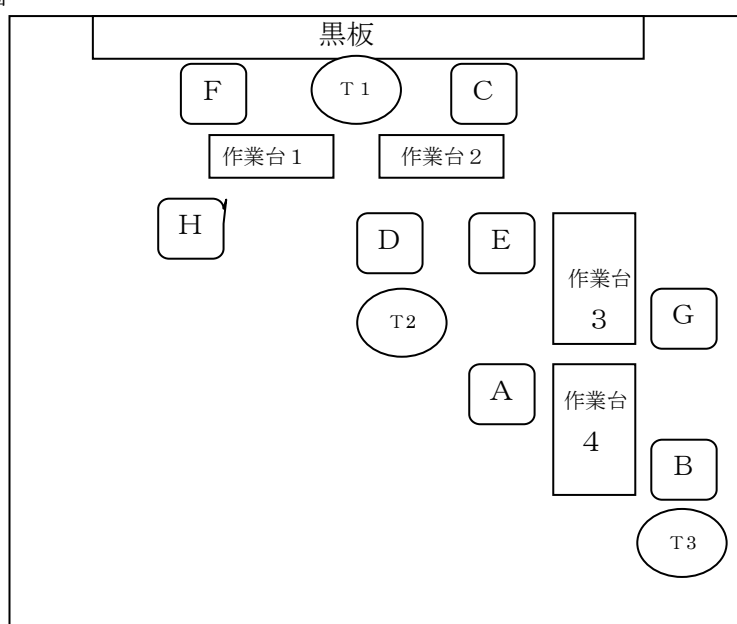
- 声かけは、全員報告・連絡が徹底している。
- イ 個別目標の評価は達成されたか。

(2) 授業の評価

観 点		評 価
授業の設計	① 学習指導案に適切な内容が盛り込まれていたか。	② 手だてを意識し、授業を進めることができなかった。 ④ 生徒それぞれに目標を聞いたが、振り返りを行わなかった。
	② 目標・手立ては明確になっていたか。	
	③ 導入・展開・整理の流し方や、時間配分は適切であったか。	
	④ その他	
授業の展開	① 生徒の学習に取り組む姿は自ら学ぶものになっていたか。	② MTが主に前の生徒を見ていたが、全体を見る余裕をもつべき。
	② 全体・個別に対する働きかけは適切であったか。	
	③ TTのあり方（役割の明確、位置等）は適切であったか。	
	④ 教材・教具は適切であったか。	
協同学習	① 「互恵的な相互依存性」	A B C D
	② 「対面的なやりとり」	A B C D
	③ 「個人の責任」	A B C D
	④ 「ソーシャルスキル」	A B C D
	⑤ 「チームのふりかえり」	A B C D

※A～よくできた B～おおむねできた C～少しだけできた D～十分ではない

9 配置図



【全員授業研究 ふりかえりレポート】

単元・題材名	作業学習「窯業（カップ作り）」	生徒	産業科１年生徒８名
		場所	窯業実習室
日時	平成２７年１２月１７日（水） ２～４校時	授業者	石黒 駿太

道具の準備や、道具をお互いに使用するとき、片付け、清掃では、ペアで声を掛け合う場面を設定した。また、清掃では約２０分以内で取り組ませることで、生徒が残り時間を全体に伝えたり、時間内に間に合わなそうで掃除時間を延長してもらうか生徒間で相談したりと声を掛け合う場面を設定した。このような経験をすることで、ある生徒たちは「テーブルがゆれます。」など周りを見て、行動していたことや、「時間になったので、掃除に入ってください。」と全体に連絡をしていたこと、物を借りるときに「〇〇借ります。」と連絡すること、「〇〇やります。」に対して「お願いします。」と返事することなど行っていた。

全体を通して、声を掛け合う場面を設定することで周りの動きを見て作業を進めることができている。また、声を出す姿勢や自分から仕事を探す姿勢なども備わってきている。さらに、ペア内で「こうしたらうまくいく。」などと助言しているペアもいた。

今後は、ペアで製品の確認をするなど声を掛け合う場面をさらに多く設定して取り組ませたいと思います。

（３）本校の協同学習実践について

26 本実施された全員授業研究の中で、どのような協同学習が行われたのか、5 つの要素はどの部分が取り入れられたのかを見ていく。

まずは、どのような協同学習が行われたのかを表 4 にまとめた。

表 4 全員授業研究における協同学習実践の実際

領域・教科名	内容
作業学習	・ <u>ペアで説明や質問をお互いにし合いながら作業をすすめる。</u> ・ やすりがけに対して、<u>仲間同士で確認</u>する。 ・ <u>製品管理を仲間同士で相談</u>しながら行う。 ・ <u>協力して掃除</u>をする。 ・ 自分たちで<u>相談して、グループを 2 つに分けて、作業に取り組む。</u> ・ <u>役割を分担し、協力して紙すき作業</u>を行う。 ・ <u>個人の出来高目標を設定し、達成に向けて取り組む。</u> ・ 自分の仕事が空いたときに、<u>他の仕事を仲間に伝えて</u>から行う。 ・ <u>お互いに出来高や必要なことを伝え合う。</u> ・ 自分が何をするか<u>仲間に伝えてから、掃除に取り組む。</u> ・ 生活家庭科と産業科の生徒が<u>グループになって</u>取り組む。 ・ 生活家庭科の生徒が産業科の生徒に使用する道具や工程、注意点などを<u>説明しながら</u>取り組む。 ・ <u>産業科の生徒はわからないことがあれば、生活家庭科の生徒に質問</u>する。 ・ <u>グループごとに分担を決めてから協力して掃除</u>を行う。 ・ <u>ペアで道具の準備</u>をする。 ・ <u>20 分以内に終わることを目標に、役割分担し、報告、連絡、相談、状況判断をしながら掃除</u>に取り組む。
生活単元学習 (学級生単含む)	・ 意見交流の<u>ルールを確認してから、集団で話</u>をする。 ・ 座席をシャッフルし、<u>様々な人と関わりながら取り組む</u>ようにする。 ・ 質問に対して、<u>ペアで考えて、答えを出す。</u> ・ <u>グループの中で一人ずつ意見を言う決まり</u>で行う。 ・ <u>役割を分担し、仲間同士で確認</u>しながら、掲示物を作成する。
国語	・ <u>話し合いながら、漢字の部品を合わせて、自分たちの漢字を作る。</u> ・ <u>一人が一つずつ文を用意し、それらを組み合わせ、全員で一つの詩を作る。</u> ・ <u>4 人グループに分かれ、役割を分担し、話し合いながら物語を作る。</u> ・ <u>個人で課題プリントに取り組んだ後、お互いにプリントを交換して、書かれてある内容を読み合い、評価する。</u>
数学	・ <u>3～4 名程度のグループに分かれて、課題に取り組む。</u> ・ 計算するための題材を、<u>グループで検討して決める。</u> ・ 解き終わっていない生徒がいたら<u>お互いに教え合う。</u> ・ <u>グループ同士で解き方を説明</u>する。 ・ <u>ペアになり、問題を解く。</u>
体育	・ <u>ペアでキャッチボール</u>を行う。 ・ <u>チームに分かれて、試合</u>を行う。 ・ 跳び箱の取り組み方について<u>仲間と相談しながら</u>取り組む。 ・ <u>7～10 名のグループに分かれてマット運動</u>を行う。

音楽	・ <u>集団</u>で声を出す。 ・ <u>2つのグループ</u>に分かれ、<u>お互いの発表を見合う</u>。
美術	・ 4名程度の<u>グループ</u>に分かれて役割を分担し、制作物のテーマやストーリー構成を<u>考える</u>。 ・ <u>色を塗る場所</u>を分担し、協力して制作する。
LHR	・ どのような写真を撮影するか<u>相談しながら取り組む</u>。

表4から、実践の多くは、作業学習を中心に、意図的にペアやグループにし、「説明」「質問」「確認」「相談」「連絡」「話し合い」「役割分担」「課題解決」「制作」などを協力して行うように場や活動を設定していることが分かる。

また、協同学習の5つの要素で、どの部分を中心に取り入れているかをまとめると、図5のようになる。

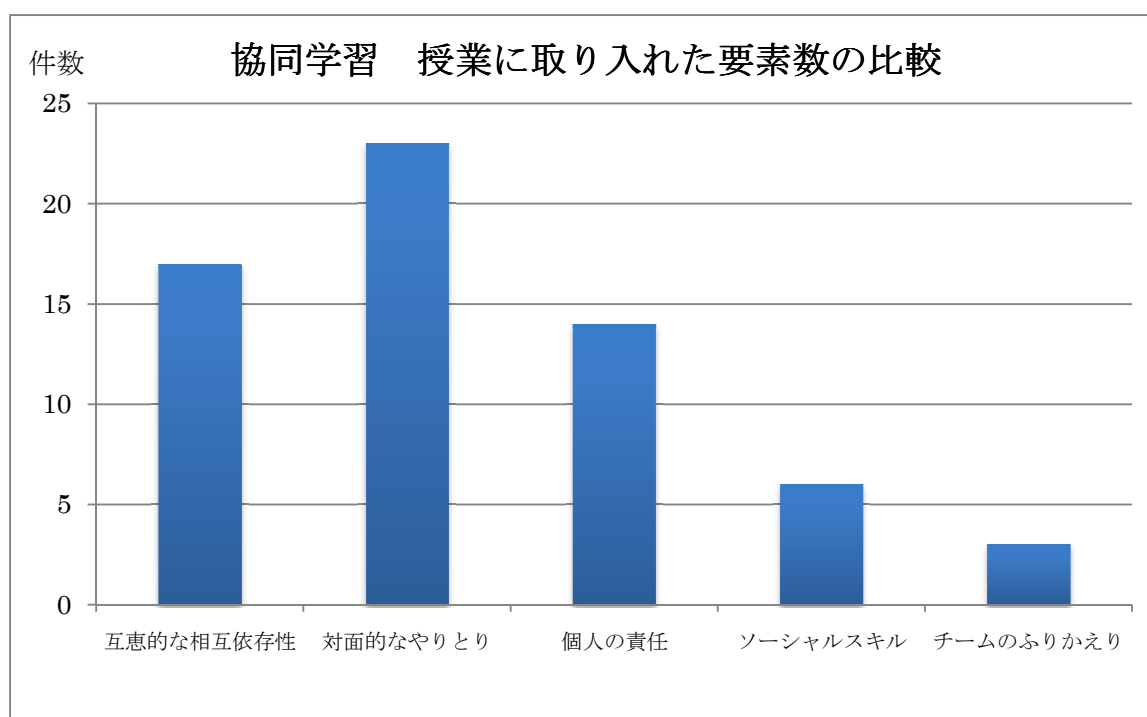


図5 協同学習 授業に取り入れた要素の比較

図5から、「互恵的な相互依存性」「対面的なやりとり」を意識して協同学習に取り組んだ実践が多いことが分かる。逆に、「ソーシャルスキル」「チームのふりかえり」は少なかった。

本校の協同学習では、ペアやグループになって、生徒同士が交流して活動する「対面的なやりとり」を中心に、集団での課題の解決や、目標達成に向けた取り組みができるように役割分担や、連絡相談などのコミュニケーションを取るようにし生徒全員にメリットがあるように、「互恵的な相互依存性」を取り入れ、与えられた役割や課題に向き合うように「個人の責任」を意識して取り組もうとしている。しかし、ペアやグループで話し合ったり、活動するときに必要なスキルである「ソーシャルスキル」を教えたり、ペアやグループでの活動がどうだったか、よかったのか悪かったのか、どうしたらよかったかなどを確認して次の活動へつなげるための「チームとしてのふりかえり」の部分を取り入れた実践は少なかった。

3 研究の成果と課題

(1) 協同学習の成果と課題について

校内研究アンケートより、協同学習について書かれている内容で「よい点」を、表5にまとめた。

表5 協同学習実践のよい点、改善点

よい点	・生徒が「やらされている」のではなく、生徒自らが考えて行動する場面が増え、自主的にやっているので、協同学習は良い取り組みだと思う。 ・協同学習は他の人の意見や考えを聞くことができるので、とても良いと思う。 ・美術での協同学習は難しいと思ったが、美術が嫌いな生徒が多い中で自分が担当する部分を責任を持ってやるという取り組みができて良かったと思う。 ・協同学習は生徒の主体性を育むための良い学習方法だと思った。 ・協調性を高めたり、コミュニケーションの向上につながる取り組みだった。 ・ペアだけではなく、フレームを作ってから活動を行うということが勉強になった。 ・協同学習は「全員に発言の機会を与えたり、考えるための時間を保障するなど、平和的に学習を進められる。」「力量関係で序列化された生徒相互の結びつきによらないで、全員参加できる授業を進められる。」などの感想を持つことができた。 ・協同学習の基礎を学べてよかった。現在の教育事情をとらえて学習でき、よい機会となった。 ・言葉がけの内容やタイミングについて考えさせられた。もっと授業の中で生徒が主体的に活動できる仕掛けを考えていきたい。 ・生徒同士で教え合うことは将来、現場でも役立つのではないかと思った。 ・生徒にわかる、楽しめる、参加したくなるという授業をつくる上で、かなり参考になり、机上学習でなく、アクションを使えることで、生徒主体の授業づくりに役立てた。 ・生徒同士の話し合いや協力して何かを作ったり、課題を解決したり意見や考えなどをまとめたりする活動をもっと多く授業に取り組んでいこうと思う。 ・協同的な活動は生徒によっては意欲的に取り組みやすい活動になった。教師にとっては生徒がどれだけの力を身につけたか、今後の課題は何かなどの判断材料になった。
-----	---

生徒同士が協同で学習することに対して、職員の皆さまから、肯定的な意見をいただいた。

実践からも見るように、生徒同士が関わり、コミュニケーションを伴いながら、学習する機会が、様々な授業で増えた。

次に、課題となる点を「課題点」として、表6にまとめた。

表6 協同学習実践の課題点

課題点	・協同学習によって得られる成果は大きいと思う。だからこそ、具体的にどんな形で取り入れていくと効果的なのか、さらに深めていきたい。 ・生徒には効果があるように感じた。しかし、全員が意見を言えるようにすることが難しかった。 ・協同学習のテーマは難しくまだよくわからない。 ・協同学習の枠が広すぎて、結局、協同学習として生徒に何を身につけてほしいのかが明確
-----	---

	ではなかった。次年度以降は例えば、対人関係の向上、ソーシャルスキルと明確なテーマを決めて取り組んだほうがよい。 ・協同学習とグループ学習の違いがはっきりできていない。教員の立ち位置も悩みである。 ・協同学習のスキル（話し合うスキル、思考のスキルなど）を明確化することが必要。形だけの協同学習になりやすい。 ・例えば、授業のうちのこの活動は互惠的な相互依存性に該当する、ここは対面的なやりとりであるといった一覧表のようなものがこの後配られたらとてもうれしい。一覧にすることで、5つの基本要素の中でよく使われている要素や逆に使われていない、使いにくい様子が見えるメリットがある。 ・本校の生徒の場合、学力や発達など、個人個人で実態差が大きく、協同学習が本校の生徒にとって適した学習方法なのかは疑問が残る。「この学習を通して、どういった生徒にしていきたいのか」など、生徒の実態に合わせて、協同学習の取り組み方を段階的に示して、わかりやすくしたほうが、協同学習の必要性を感じてもらえるのではないかな。協同学習の必要性をもっと先生方で共有できると、よい取り組みになると思う。 ・協同学習が難しい。
--	--

課題点をふまえて、本校の協同学習実践についての課題を以下にまとめた。

① 多様な生徒の実態に即した協同学習設定の困難さ

本校に在籍する生徒は、発達段階の差が広く、さらに、自閉症など併せ有する生徒もおり、実態が多様化している。例えば、小学校や中学校の通常学級であれば、比較的同程度の発達段階である児童生徒が集まっていて、協同学習で課題に取り組むにしても、お互いに取り組みやすさがあるだろう。

しかし本校の場合は、特に、学年全体で活動する生活単元学習などの場面において、実態差から、理解力や行動力がある生徒が活動を主導しやすく、実態が似た生徒同士だけで学習を進めてしまったり、逆に、なかなか意見を言えず、活動にやや時間がかかったりする生徒は受け身になったまま学習が終わってしまうなど、うまく協同学習を機能させることができないことがあった。これは卒業後の生徒が抱いている「コミュニケーション能力の不足。」「他人との関係が従属的、共依存的である。」という課題に通じる。また、「意図的に協同学習を含んだ授業に取り組むことで、生徒が自らコミュニケーションを取りながら、課題を解決する力をつけ、キャリア発達を進めることができるのではないかな。」という仮説に対しても、コミュニケーション場面を用意するだけではなく、どうしたらいろいろな人とコミュニケーションを取ることができるのかという部分の検討が必要となってくる。学年でも学級でも、生徒同士誰もがお互いに価値ある存在であること、誰とでもお互いに尊重して学習することの意味などを教師が事前に何度も伝え実践していくこと、グループではなく、ペアでの活動を中心にして、関わりやすくすることなど、様々な取り組みが考えられる。また、協同学習の成立と深化を支える話し合いのスキルや思考のスキルなど、協同学習スキルを明確に整理し、その検証を行うことが必要である。

つまり、協同学習で学ぶスキルや、協同学習を進める上での技法を取り入れつつ、「いろいろな人とコミュニケーションを取りながら学習していく。」ということができるように、授業作りの在り方を検討していくべきだろう。

② 5つの要素を含めた授業づくり

協同学習の5つの要素「互惠的な相互依存性」「対面的なやりとり」「個人の責任」「ソーシャ

ルスキル」「チームとしてのふりかえり」を取り入れた授業づくりを行うため、事前に研修を行った。さらに、指導案にも5つの要素のどの部分を中心に授業を行うのか明記してもらい、本校の協同学習実践について見ていくことができるようにした。

しかし実際には、授業研究を行う前に、5つの要素について再確認をしたいという質問が多数あり、意見としても「協同学習が難しくよくわからない。」「何をすべきかという部分が広すぎる。」などがあり、5つの要素について混乱させてしまった状況があった。

今後は、協同学習を取り入れて授業づくりを行うための、「協同学習の授業マニュアル」を作成し、模擬授業を通して協同学習を実際に体験したり、協同学習の技法について学んだり、マニュアルをもとに授業を作るなどの取り組みが考えられる。

（２）全員授業研究の成果と課題について

校内研究アンケートより、全員授業研究の方法について書かれている内容で「よい点」を、表7にまとめた。

表7 全員授業研究のよい点

よい点	・素晴らしい取り組みである。全員がやることに意義があると思う。 ・一人一人にある程度の責任感がある中でできたことが良かった。自分がやっていないことを批判するのは簡単だが、「全員がやる」ということが大切だと改めて感じた。 ・先生方に見ていただいて改めて自分の欠点について気付くことができた。また、他の学年の先生方から生徒の良さについて話していただき、改めて生徒の良さについて気付くことができた。 ・良い緊張感の中で授業することで先生方のレベルアップ、スキルアップにつながったと思う。 ・授業研をすることで、新たな視点で問題点などを指摘してもらってよかった。 ・全員が授業をすることで協同学習に対する意識が明確になり良かった。 ・授業の作り方や参観してくださった先生方からのアドバイスは参考になった。 ・全員が同じ目的や共通した内容で取り組めたことが良かった。 ・全員授業研究もふりかえりレポートも、それぞれ負担が大きかったが、授業公開は刺激になる。 ・授業研は略案が見やすく、作りやすい様式だったので大変良かった。 ・授業研をやらせていただき、とてもありがたかった。 ・全員が授業の展開や結果について、改めて考えることができる機会になり、効果的であった。 ・自分の授業に対して、コメントをいただけるのは勉強になったし、嬉しかった。 ・自分の授業を多くの方に見てもらい、様々な観点から再確認をすることができて良かった。 ・全員授業研は良い取り組みだと思います。他の人の授業を見て、自分の授業をふりかえる大きなチャンスになるからです。 ・いつもよりも授業の立案やふりかえりを深く行うことができた。 ・やりっぱなしではなく、ふりかえることで、自分の授業を考えられた。 ・見学していただき、指導者も生徒も良い刺激となった。 ・自分の現時点での課題がはっきりし、授業力のレベルアップにつながった。 ・ほぼ全員が自分の受け持っている授業についてしっかり向き合う良い機会だったと思う。 ・先生方の授業を見る機会があり、とても勉強になったと同時に自分の課題や改善点が浮き彫りになった。今後の授業や自身のスキルアップにつなげていきたいと思う。 ・取り組みやすく、書きやすく、効果的だった。継続して取り組むと着実に授業力が向上す
-----	---

	ることを確信した。 ・年に 1,2 度研究授業を行うことは緊張を保ち、自らを高める上でとてもよい経験となった。
--	---

アンケートを通して肯定的な意見を多くいただいた。PDCA サイクルのように、授業を計画し、実践し、評価し、改善につなげる流れは、授業力向上につながると思われる。一人一人取り組むことで、校内研究に関わる当事者性も大きかったのではないかと考える。

次に、課題となる点を「課題点」として、表 8 にまとめた。

表 8 全員授業研究の課題点

課題点	・互いに授業を見学し合ったり、ふりかえりレポートの作成は負担が大きい気がした。 ・授業を見学に行きたくても、自分の授業と重なり見に行けず、残念であった。 ・もっと他の先生方の授業研が見に行けたらと思う。自分の授業の関係でほとんど参観できなかった。 ・それぞれの先生方の授業があり、参観が少ない印象がある。せっかくいい機会がうまく機能していない。 ・自分の授業が入っていて、他の人の授業がなかなか見に行けなかった。 ・各学年 1 名は参観をするというルールがあったはずだが、授業当日によっては他学年の授業体制の関係などがあり、参観者が少なかった時があった。 ・授業研というものは、授業を見ていただき、たくさんの方々からアドバイスをいただいて反省し、自分の授業を改めるものだと思う。参観者が少ないのであれば、普段の授業を見に来ていただくのとそれほど変わらないのではないか。 ・たくさんの先生が参観できるような形態にして意見交換が活発にできるようにしてもらったほうが、やりがいを感じるし、意見を聞いて学ぼうとすることにもつながるのではないか。 ・授業を見に行く体制などがもっとしっかりできて見に行けるといいなと思った。 ・全員授業研究を見に行きたかった。しかし、自分の授業と重なり見に行くことができなかった。 ・全員授業研究はなかなか授業を見に行けないので、無理があるのではないかと思った。 ・研究としての授業参観も大切だが、研究だけではなく通常時も参観しやすいような環境を整えることも大切だと感じた。 ・普段の授業を見に来てもらえるようになれば、理想だった。 ・ふりかえりレポートも含めて、授業後のアンケートも取り入れた授業研究をもう一度行うことで授業力が身に付くと感じた。 ・細案授業研は学年を代表して行うスタンスで授業者の人選をすべきである。 ・授業の質＝学校の質。生徒の成長を考えるのであれば、もっとそれぞれが厳しく評価し合い、みんなで成長できればと感じる。 ・実習助手や普段授業をされない方の取り組みが何かわからなかった。 ・この取組を通して、「生徒の成長のために良い授業を行う」という視点や緊張感を授業者が常に持ち続け、授業中の生徒の様子や教師の発問、改善点などについて職員室での会話の中に出てくることにつながればと感じた。 ・経験が浅い教師を育てていくための機能も含めていくべきである。
-----	---

課題点をふまえて、全員授業研究についての課題を以下にまとめた。

① 全員授業研究の参観方法と話し合いの生かし方

本来は、各学年から1名必ず参観者を出すというルールになっていたが、実際には、ほとんど参観者がいない授業もあるなど、なかなか参観者を固定で出すことができなかった。せっかく授業を公開しても、参観者が少なくでは意見をもらうこともできず、授業者自身のモチベーションも低下してしまう。学年で2名ずつ参観者を出すなどの参観体制を組んだり、授業を映像記録として保存して放課後に映像視聴後、アンケートを記入したり、協議会に参加するようにするなど、お互いに授業を参観しやすいシステムを考える必要がある。

また、授業後の協議会で多様な観点から意見が出されたが、それらを記録化し、授業の改善点をまとめることができなかった。記録者を決めるなど、協議会の持ち方を見直す必要がある。

② ふりかえりを生かす方法

各自、ふりかえりレポートを書いてもらった。各自、ふりかえりをもとに実践を続けているが、授業後の協議会の記録化がなされていないため、授業反省と「ふりかえり」の内容とのつながりが明らかではなかったり、十分に生かされた「ふりかえり」とはならないケースもみられた。協議会の記録の共有化に基づいたレポートに書かれたふりかえりをもとに、協同学習についての研修を行いつつ、再度授業改善に取り組み、さらに授業づくりが深まっていくのではないだろうか。

③ 職員全員をつなぐ

今回の研究では、個人作業が中心であった。ただ、課題研究は、職員が一つの同じ目的へ向かって、コミュニケーションを取りながら、考えていくという、職員同士をつなぐ作用もあると考える。授業づくりに関しては個人作業になっても、協同学習についての検討や研修は職員同士が交流できる場にするなど、職員同士の関わりを深める、職員全員で取り組むことができる工夫を考える必要がある。

4 おわりに

協同学習、全員授業研究を取り入れた課題研究であるが、様々な成果と課題がわかった。協同学習は授業の一形態であり、授業の目標が達成されるのであれば、一斉授業の方法をとれば、協同学習の方法を取ることもできる。協同学習は絶対ではなく、一つの選択肢なのである。

生徒が主体になり、コミュニケーションを取りながら授業を進め、卒業後に生徒が抱く課題が少しでも解決していくために、課題研究に関わる職員全員で学んでいきたい。特に、協同学習はアクティブ・ラーニングの一つであり、実践研究する職員も本研究がアクティブ・ラーニングになるよう、授業研究に基づいた指導法の改善に取り組んでいきたい。

最後になりましたが、全員授業研究に協力してくださった皆さまに、お礼申し上げます。

引用・参考文献

- ・阿部芳久（1997）「障害児教育 授業の設計」 日本文化科学社
- ・石川晋・大野睦仁（2014）「笑顔と対話があふれる校内研修」 学事出版
- ・静岡大学教育学部附属特別支援学校（編）（2013）「特別支援教育のコツ 今、知りたい！ かかわる力・調整する力」 ジアース教育新社
- ・杉江修治（2011）「協同学習入門 基本の理解と 51 の工夫」 ナカニシヤ出版
- ・原田信之（2010）「学級を『学びの共同体（ラーニング・コミュニティ）』にするための協同学習」 平成 19～21 年度文部科学省科学研究費補助金・基盤研究(C)学級を「学びの共同体」にするための教師の力量形成プログラムの開発研究成果報告書
- ・吉田新一郎・岩瀬直樹（2007）「効果 10 倍の〈学び〉の技法」 PHP 新書
- ・Johnson, D. W., Johnson, R. T., & Holubec, E. J. (2002) *CIRCLES OF LEARNING: Cooperation in the classroom* (5th edition) Interaction Book Companu, Edina, MN （ジョンソン, D. W., ジョンソン, R. T, ホルベック, E. J.、石田裕久、梅原巳代子（訳）（2010）「改訂新版 学習の輪 学び合いの協同教育入門」） 二瓶社
- ・涌井恵（2014）「学び方を学ぶ」 ジアース教育新社
- ・涌井恵（2015）「学び方にはコツがある！その子にあった学び方支援」 明治図書
- ・本校研究紀要「創」第 17 号（2015）